

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

ワークショップ実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	カンジヤマ・マイム
公演団体名	カンジヤマ・マイム

内容
まずは一般的なアイスブレイキングアクティビティー、つまり「ほぐし」の練習から始まります。簡単な動きの練習から始めて、子ども達のグループの経験、エネルギー、あるいは開放度をこの一連のゲームによって判断し、臨機応変に対応してゆきます。段階的に身体を自分の創造力と想像力で楽しめるエチュードを楽しみながら、いくつか実践してもらい、お互いに見せ合います。例えば小学生の自らの大好きな場所（自分の隠れ家やら、自分の部屋）を、最初は言葉と動きで他人を案内してゆくことにより、五感を使って想像をする体験や、あるいは、自分の感動体験を身体のプロロー（静止状態の人間彫刻）にし、それをスナップ写真のように見せるという方法を取りながら、徐々に動きに対する恐怖感を取り除いて参ります。勿論、最初から動きそのものに入れる場合は、子ども達の即興技能に挑戦しながら、言葉の動的印象などをどしどし動きに変えてゆく劇遊びを行い、彼らの動きの飛躍を奨励します。常に参加者とのコミュニケーションを重んじながら柔軟に効果的に身体を動かす事の喜びを学んで頂くように指導してまいります。

タイムスケジュール（標準）
開始予定時刻 1時間～30分前 会場入り ワークショップ開始 ～10-15分 ウォームアップ、アイスブレイキング ～15分～ 参加者の年齢その他要素に合わせた活動 1コマ 45-50分（学校の時間割に合わせる）×2, 3 （※ワークショップ終了後、本公演会場確認）

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
指導者3～4名。通常3名。学校の参加児童・生徒数、学年、グループ数に合わせて4名必要な時は4名。

学校における事前指導
特に必要はありません。要請があれば、マイムに関する一般的な情報等、カンジヤマ・マイムの著書などからの抜粋をご紹介します。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	カンジヤマ・マイム
公演団体名	カンジヤマ・マイム

演目

おしゃべりなパントマイム

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください

6名（出演者3名、舞台監督1名、音響担当1名、照明担当1名）

タイムスケジュール（標準）

標準：仕込み	9時～12時
本公演	13時30分～14時50分（公演中、原則として休憩なし）
撤去	15時15分～16時15分

実施校への協力依頼人員

仕込み開始時、体育館の電源のカギを開けて頂くこと。その他基本的には必要ありません。ただ、会場の体育館などが2階以上の場合は、搬入のお手伝いを2,3人ほどお願い致します。

また、車を止められる場所から体育館が非常に離れている場合、お手伝いをお願いするかもしれません。いずれにせよ、事前に（ワークショップ前後）会場を見学して、打ち合わせをさせていただきます。

演目解説

通常の日常生活において私たちが無意識に使っている人間の生身の身体には、実は驚異的な無限の可能性が秘められています。この様々な表現の可能性の具体例を、ウィットが満ちた話芸で面白おかしく紹介する事からこの舞台は始まります。特に最近のコロナウィルスの影響による学校や家庭に於ける身体表現の機会の減少により、自分を身体で表現しなくなった子ども達の為に、私たちの舞台は極めて有効にその魅力を提示できると強く信じます。まずは古典的なマイム技術を駆使しながら、人間の身体の潜在的な表現力に驚嘆してもらい、同時に自らの身体の可能性を再認識してもらいます。

次に、対人関係や、物事に対する人の対応の面白さ、人間の優しさ、出会い、別れなどを、斬新なアイデアとユニークな人間観察を通じて、舞台上に表現し、人間の身体表現の奥深さを味わって頂きます。

作品はそれぞれのテーマにそって5～15分程度のをオムニバスで綴り、その間を話芸と身体マイム芸の紹介、子ども達参加型のコミュニケーションで有機的に繋ぎます。有機的とは、作品の前後に、その作品が子ども達の日常とどのように関連しているのか、あるいは、どんな所が見どころなのかを、落語の枕噺のように、しかも教育的メッセージを盛り込んだ楽しい話芸で紡いでゆきます。休憩なしで1時間20分をまったく飽きさせずに40年以上この作品群で公演活動してまいりました。(勿論、これら個々の作品群は常に改良され、新作も随時挿入し、その中で最も「現在」に有効な作品を選びすぐりながら進化し続けております)

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

公演中、何度か児童生徒達全員が座ったままでもできる動きで、自らの身体も使ってみるという参加コーナーがあります。また、最初のデモンストレーションの一つとして、マイム特有の人形振り、あるいは銅像になるというテクニックを披露し、後にそれを児童自身の将来の夢に関わらせて、自分たちで将来なりたいものの姿になりきってもらいます。これによって自分の夢を意識しながら、マイムのテクニックを堪能してもらいます。この銅像は比較的すぐに形になるものなので、初心者でも楽しみながらできるという利点があります。見ている児童も勿論たのしめます。

(※この観客数名が舞台に上がるコーナーでは、コロナ対策として、全員がマスク、フェイスシールドを着用し、距離と接触に気を付けて行うプランと、さらなる安全確保の為、観客は舞台に上がらないプランとを準備しています。)

児童生徒とのふれあい

マイムの作品の間にも要所要所に、児童が客席で座りながらできる不思議な動きなどを紹介して、児童が体験しながら、舞台への集中の準備をできるようにします。この際にも客席とのコミュニケーションを重視しながら、動き、そして話をし、次の作品の枕話的なものを披露しながら舞台作品に入ってゆきます。